



保育サポーターバンク通信

2025年(令和7年)10月発行 一般社団法人山口県医師会 〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 TEL090-9502-3715 FAX083-922-2527



子育てを全力応援！ 「保育サポーターバンク」 17年目を迎えて

山口県医師会男女共同参画部会長
戒能 美雪

おかげさまで、保育サポーターバンク制度は開設から17年目を迎え、平成21年のスタート以来、令和7年6月末日までに成立したサポート件数は157件に上りました。これまでバンクの運営にご協力いただきました全ての皆さまのご理解・ご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

現在、本制度を利用している医師は18名、活動中のサポーターは23名となっており、育児と仕事の両立に挑む医師を日々支援しています。山口県で働いている医師であれば、男女を問わずどなたでもご利用いただけます。そして、医師が安心して診療や研究に専念できるよう、多様な保育ニーズに対応する支援体制を整えております。具体的には、乳児期からの保育サ

ポートに加え、定期的な保育施設や習い事への送迎、さらには急な勤務延長時の柔軟な対応など、子育て環境に寄り添ったきめ細かなサービスを提供しております。利用者である医師からは「安心して勤務に集中できる」など、保育サポートに対して感謝の声が多く寄せられており、現場において高い評価を得ています。

保育サポーターバンク制度は、医師としてのキャリアを築くとともに、家庭における役割も果たしたいという若手医師の思いに寄り添う取り組みであり、これからの山口県の医療を支えていく上で大きな意義を持っています。今後も、より多くの医師に制度をご活用いただけるよう利用促進に努めるとともに、支援体制のさらなる充実を図ってまいりたいと思います。運営にあたりましては、今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



保育サポーターバンクの 更なる飛躍を願って

山口県健康福祉部長
石丸 泰隆

平素から、本県の健康福祉行政の推進に、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年、医学部への女性入学者数が増加していることに伴い、全国的に医師全体に占める女性医師の割合が増加傾向にあります。本県においてもこの傾向は顕著であり、特に35歳未満の女性医師が全体の3割を超えています。今後もこの割合はさらに高まることが予想されており、女性医師の方々が妊娠・出産・子育ての期間中も安心して職務を継続できる環境の整備は、本県の医療体制を守るためにも極めて重要です。

このため、県では、女性医師を対象とした様々な支援を行う中でも、仕事と子育ての両立支援には特に力を注いでおり、山口県医師会の御協力のもと、専任の

保育相談員を配置した相談窓口を設け、育児に関する様々な御相談に対応しております。

この相談窓口と保育サポーターバンクの連携により、個々のニーズに合わせたきめ細やかな支援を提供することが可能となり、実際に利用された方々からは大変御好評をいただいております。今後とも、保育サポーターバンクの更なる充実と保育サポーターの皆様の御活躍を期待しています。

女性医師の皆様におかれましては、子育てに関する多くの不安や悩みもあろうかと思いますが、この相談窓口や保育サポーターを御活用いただき、仕事と子育ての両立を図り、安心して本県の医療の場で御活躍されることを切に願っております。

最後に、保育サポーターバンクの今後益々の御発展を祈念するとともに、保育サポーターの皆様をはじめとした関係者の方々へ、深く感謝を申し上げます。



令和6年度 保育サポーター研修会 講演抄録



子どもの病気 昔と今

～身体の病、心の病～

よしとみクリニック

綿野 友美 先生



はじめに

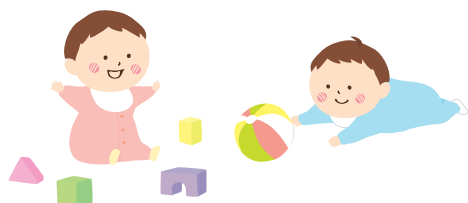
演題名と少し違いますが、保育を行う上で知っておきたい子どもの病気やとりまく環境、また最近の子育て状況など、全般的に広く浅くお話をさせていただきました。子どもは月齢・年齢で発達や生理機能、病気の種類などが違ってくるため、それぞれの成長期別に理解を深めていただけたらと思います。

出生から乳児期

栄養・離乳食の昔と今：以前は、生後3ヵ月頃から白湯や果汁を薄めたものを与えていましたが今は推奨されていないようです。離乳食準備に味付けしてないだし汁なども必要なく、生後5～6ヵ月まで母乳とミルクで十分ですよ、と説明しています。

食物アレルギー：乳児期の湿疹と食物アレルギーの獲得については関連があるとされています。湿疹に対してスキンケアをしっかり行うことがアレルギー獲得を予防するためにも大事です。また昨今の食物アレルギー対処は、原因食物の完全除去はほとんどしていません。必要最小限の食物除去が推奨されていますが、家庭での判断が難しい場合、医師や栄養士と連携して行います。

乳児期の事故について：頭部打撲、異物誤飲について「山口県小児救急医療ガイドブック」にわかりやすくまとめられているため、参考にしてください。県のHPからPDFでダウンロードできます。



幼児期

歩いてしゃべれるようになったら、集団生活が始まります。各種感染症に次々と罹患するため、その特徴と予防するためのワクチンの基礎知識と健診の種類について知っておくといいいでしょう。小児科では健診は1ヵ月健診（自治体による）から3～4ヵ月健診、6～7ヵ月健診、1歳健診（現在推奨中）、1歳半健診、3歳半健診、5歳児健診（現在定期化準備中）、学校健診が小中高と整備されています。目まぐるしく変化する子どもの成長に応じて健診を行うには、これだけ必要と言うことです。



各種感染症については、昨年度流行した手足口病やマイコプラズマ感染症について基礎知識をお伝えしました。そのほかRSウイルスは冬に流行り、乳児が罹ると重症化しやすい呼吸器感染症を起こしやすいウイルスです。未熟児に対してワクチンが開発されていますが、最近は高齢者でも問題となっていて、2024年に高齢者用にワクチンが開発されました。

子宮頸がんの原因ウイルスであるヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンについて、平成25（2013）年6月から、積極的な勧奨が一時的に差し控えられていましたが、令和3（2021）年11月に、専門家の評価により「HPVワクチンの積極的勧奨を差し控え

ている状態を終了させることが妥当」とされ、令和4(2022)年4月から、他の定期接種と同様に、個別の勧奨を行っています。

そのほか、発達障害については、自閉スペクトラム症や注意欠如多動症などの基礎知識についてお話ししました。

学齢期

小中学校の生徒については、メディアと子ども、不登校、いじめ、子どもの貧困、ヤングケアラー、児童虐待など、子ども達を取り巻く環境の問題について基本的なことを知識として知っていて欲しいと思います。社会問題は今も昔も続いていることが非常に残念です。



まず、メディアと子どもですが、もはやスマホを使わせないわけにはいかない状況であり、IT社会で生きていく世代には、ネットリテラシーと自己管理を教育していく必要があると思われます。最初にスマホを持たせるのが肝心で、PC、スマホ使用ルール作りのポイントを説明させていただきました。また、ペアレンタルコントロール機能を利用して子どものスマホの閲覧制限やタイマー設定などが出来るアプリについて情報提供いたしました。

そのほか、不登校やいじめは少子化でも増えていること、ヤングケアラーという「家族にケアを要する人

がいる場合、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子ども」のこと、子どもの貧困についても、是非、知って欲しいと思います。



子どもの貧困とは「教育、仕事、食料、保険医療、飲料水、住居、エネルギーなど最も基本的な物・サービスを手に入れられない状態のこと」を貧困と定義した場合、日本では9人に1人がこれに該当します。(2021年厚労省調査)これを支援しようと、全国的に「こども食堂」が増えています。「こども食堂」とは、子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂で、民間発の自主的・自発的な取組みです。運営を支援する公的な制度などが整備されていないにもかかわらず、こども食堂の数は増加の一途をたどっており、現在その数は全国で約10,000箇所以上にのぼります。山口県にも30箇所以上あり、山口県こども食堂支援センターのHPで詳細を確認できます。これは決して良いことではない、ということ肝に銘じていきたいと思っています。

最後に〈思春期〉の問題として、LBGTQ+の基礎と、心の病、心身症の全体像について説明して講義を終しました。

みなさんがとても熱心に、身を乗り出すように聴講してくださったのが印象的でした。

予告!!

令和7年度 研修会 日程

サポーターの皆様には改めてご案内を差し上げますが、下記のとおり開催予定です。万事繰り合わせてご出席くださるようご予定ください。



日 時：令和8年**3月8日**(日)
10時から13時

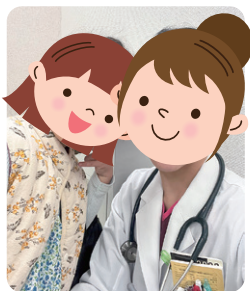
場 所：山口県医師会会議室
(山口市吉敷 山口県総合保健会館内)

講 演：山口大学院医学研究科
皮膚科学講座 下村尚子 先生

その他：保育サポーターバンクの説明
昼食懇談会

利用者の声

佐藤医師(内科・41才)



初めまして。私は2008年卒の内科医で2024年1月から保育サポーター制度を利用中です。私の経験が少しでもお役に立てば幸甚です。

2017年に山口在住の夫(非医療従事者)と結婚し広島から転居して参りました。35歳、36歳、38歳で出産し、第3子が1歳3ヶ月となる2023年4月に時短勤務で再就職しました。約5年の臨床プランク、慣れない通勤、勤務後に院内保育所で3子を回収後、幼稚園で1,2子を回収し、17時に帰宅。その後夫の帰宅までの2時間半で子供3人の入浴、食事、寝かしつけを済ませる生活が始まりました。それまでと環境が一変し、数ヶ月後には意欲、食欲が減退。子供の要求に応えられない自分が情けなく、消えてしまいたいと思うようになりました。様子がおかしいと気づいた母が広島から泊まり込みで助けてくれましたが、世帯内で解決できないのに子供を産んでしまったという罪悪感が出現し、母が帰った後は元の業務量に戻ることとで精神状態が悪化するという状況でした。

勤務先のF先生に県医師会の保育サポーター制度を紹介していただき、2024年1月から週3回、幼稚園の迎えをお願いすることになりました。お菓子作りの上手な方で、子供と一緒にケーキを作ってくさったり、私がオーバーフローして取り乱している時には優しく声かけしてくさったり、物理的な「お迎えの時間」だけでなく、「精神的安定」もいただきました。2024年4月に転居したため、3ヶ月のお付き合いでしたが今でも私の心の支えです。

2024年4月以降はサポーターさん2人体制で、週4回子供たちを回収していただいています。これまで延べ4人の方に助けていただきましたが、皆様優しい方で、安心して子供たちをお任せできました。このような素晴らしいご縁をいただき、相談員の石飛さん、F先生には頭が上がりません。

女性医師の方々は、ご自分の努力で大抵のことが解決してきたのではないのでしょうか。私はその成功体験が枷となり、「落伍者」「不合格」の烙印を押されるようで、なかなか助けを求められませんでした。出産により別人格の個体が登場し、こちらの気力、体力、時間が無慈悲に削られるのには本当に面食らいました。どうか、私のようなになる前に、周囲を巻き込んで助けてもらってください。この制度を利用していなかったら、私は医師、妻、母、どれかを諦めていたと思います。

匿名希望

いつもお世話になっております。

主人は8年前に継承のため県外から来た40代開業医、私は30代主婦、7才長女、4歳長男、1才次男の5人家族です。

近くに親族がいない為、保育サポーター制度を利用させて頂いております。依頼内容としては主に上の子の学校行事の際に1才児の保育、掃除機かけなどの家事、他にも用事がある時には3人の保育をお願いしております。年齢が違う子供たちそれぞれが楽しめるように遊んでいただいておりますので、皆サポーターさんのことが大好きです。

私が保育サポーター制度を知ったきっかけは、子供が通う幼児教室の先生からです。主人は全く制度を知らず後になって生前主人の父が県医師会の理事をしている時に保育サポーター制度が発足され、その当時は

女性医師が対象だったようです。しかし現在は私のような場合も利用することが出来るため大変ありがたい制度です。意外と知られていないのかもしれませんが。

もっと保育サポーター制度が広く知れ渡れば医師家族は県外から戻ってき易くなり、そうすることが開業医の継承へと繋がっていくのではないかと思います。

最後になりますが、サポーターさんが私たちの事を大切にしてくださるよう私達もサポーターさんの事をこれからも大切に参ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。いつもありがとうございます。



サポーターさんによる支援の事例



- 郡市医師会講演会時の託児(不定期)
- 夜間の研修会等に参加する医師のための預かり保育(不定期)
- 軽症の病児保育(不定期)
- 塾への送迎及その後医師帰宅までの保育
- 週2～3回保育園へのお迎えと医師帰宅までの保育

サポーター さんの声



今回は地域ファミサポと医師会保育サポートと幅広く活動されている保育サポーター廣林美里さん(山口市・30代)にインタビューしてきました。

——医師会サポーターに登録されたきっかけは？

保健センターの「ひとり親支援のサポート」をしている時期に保健センター職員さんから「医師会での保育サポーターというものがあるよ」と紹介されて登録しました。

——医師会と地域ファミサポで活動して何か違いがありますか？

地域ファミサポはサポーターの自宅での保育が基本ですが、医師会のサポートはオーダーメイドの支援となるので送迎をしたり医師宅でサポートしたりと様々な形で支援させていただいています。子どもたちは慣れてくるとニコニコしながら玄関まで出迎えてくれて、「今日は何して遊ぶ?！」と笑顔での歓迎が嬉しくて可愛いです。

下関市 60代
匿名希望

私は昨年4月から、週に一度6歳と3歳のお子さんを保育園にお迎えに行き、先生のお宅で、先生の作られたお弁当やおやつを食べてお帰りを待つというサポートをさせて頂いています。それまでは単発でのサポートが主でしたので、慣れてもらえるかととても不安でした。保育園からご自宅までは約5分ほどですが、安全運転に心掛け、お2人との会話を楽しませてもらっています。まだ1年半ほどですが、保育園に行くと「〇〇さ〜ん」と笑

——保育サポーター活動をして色々なタイプのお子さんと接してご苦労はありますか。

はじめましての時には「この人どんな人なのかな?」と不安に思う気持ちが強く中々笑顔が見られないことが続く時もありますが、たくさん関りお話ししてサポートを重ねるうちに「この人知ってる人!」「見たことある人!」「いつもの人!」とだんだん認知してくれ、懐いて受け入れてくれる子どもたちがホント可愛いですね。

ただ、サポート中にケガをさせてしまうことが一番心配です。子どもは思いがけない行動をすることがあるので、送迎サポートの車の乗降やお散歩の時などは目を離さないように常に注意しています。

保育士の経験を活かしてサポートしていただけるのでサポートを依頼する医師も安心ですね。

サポートを依頼する医師からはいつも感謝の言葉をいただき、やりがいを感じています。

忙しい医師にとっては、困った時に頼れる人が傍にいてくれてありがたいですね。いつも手厚いサポートありがとうございます。

保育サポーターさんの益々のご活躍を祈念しインタビューを終了します。

顔で走って出てきてくれたり、お家でお弁当やおやつを食べながらいろいろなお話をしてくれるので私も週に一度お2人に会えるのがとても楽しみです。

またお忙しい先生が朝から作られるお弁当をお2人がとても楽しみにしていて、「今日は何のお弁当かなあ?」と話す姿がとても愛らしいです。

先生がおられない間を楽しく過ごせるよう、寂しさを感じないように、そして大切な仕事をされておられる先生に僅かでも余裕を持って過ごして頂ける様子を込めてサポートを行っていきたいと思っています。



医師の
みなさんへ

保育相談員より一言

●サポートの急なキャンセルはご遠慮ください。サポーターさんはスケジュール調整しサポート準備をしています。当日や直前のサポートキャンセルはしないよう心掛けましょう。**急なキャンセルの場合はキャンセル料の支払いのご検討をお願いします。**

●サポート依頼を終了する際には、サポーターさんにはもちろん、相談員にも**必ず**終了の連絡をお願いします。

す。(保険の更新の関係で把握が必要です)サポート依頼を一旦終了後、久しぶりにサポート依頼をされる際にはサポーター保険が終了している可能性もありますので相談員にご連絡をお願いします。

(相談員連絡先 090-9502-3715)
●サポーターさんへのお手当の精算は数か月分をためずに**月に1回は支払うようにしましょう。**誠意あるご対応をお願いします。

保育相談員連絡先
090-9502-3715



サポーター
さんへ

●個人情報の管理はしっかりと行いましょう。再度サポートにおける「**守秘義務**」について今一度認識していただき「個人情報の漏えい」のないようお気をつけください。

知っていると役立つ 医学まめ知識

子宮頸がんワクチン (HPV ワクチン)について

山口労災病院小児科
田代紀陸

日本では、毎年約 10,000 人も女性の新たに子宮頸がんと診断され、約 2,900 人が亡くなっています。女性特有のがんとしては乳がんに次いで罹患率が高く、たとえ死に至らないまでも、ごく初期のがんを除いては子宮摘出となる可能性があります。特に 20 代から 40 代の若い女性に多く、早くからの予防が重要とされています。その原因のほとんどは、ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染によるものであり、**ワクチン接種により 80 ~ 90% の予防が可能**です。

現在、日本では HPV ワクチンは、小学校 6 年生から高校 1 年生相当の女子に対して無料で定期接種として提供されています。また、接種の機会を逃した方 (1997 ~ 2007 年度生まれの女性) に対しては 2025 年 3 月末まで「キャッチアップ接種」が実施されました。

かつて HPV ワクチン接種後の多様な症状が、あたかもワクチンと因果関係があるかのようにメディアにより繰り返し報道され、2015 年から国による「積極的勧奨」が中止されていましたが、その後の大規模調査により、ワクチンによる副反応と報道されたような多様な症状との因果関係は科学的に認められないと結論づけられました。2022

年にはようやく積極的勧奨が再開され、安全性と有効性は日本産科婦人科学会や WHO をはじめ、世界中で高く評価されています。

しかし、その空白の 8 年間の影響は大きく、日本の HPV ワクチンの接種率は長く 1 % 未満まで落ち込みました。積極的勧奨の再開後、2022 年度の定期予防接種対象者 (2007 年度生まれ) の接種率は 46.5% で、イギリス (80 ~ 85%) やオーストラリア (約 80%) などと比べると、まだまだ低い水準にあります。

子宮頸がんは、HPV ワクチン接種と検診を組み合わせることで、予防が可能と考えられています。山口県は、子宮頸がん検診の受診率が、2022 年は 34.9% で全国最下位でした (全国平均は 43.6%)。そのため 2024 年度から「やまぐち 3070 (さんまるななまる) 運動」に取り組み、30 代女性の子宮頸がん検診受診率 70% 以上を目指しています。国の指針としては、20 歳以上の女性において、2 年に 1 回の子宮頸がん検診が推奨されています。

HPV ワクチンの接種対象となるお子様に対して、正しい科学的根拠に基づいてワクチン接種をご判断いただき、**子宮頸がんからお子様を守りましょう。**そして、20 歳を過ぎたら 2 年に 1 回は子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。



医師のみなさんへ

両立支援のための「保育サポーターバンク」をご活用ください。保育相談員が要望をお聞きしてコーディネートします。まずはお電話かメールでご連絡ください。医師会加入の有無は問いません。

【問い合わせ先】TEL : 090-9502-3715 (保育相談員直通)
E-mail : hoiku@yamaguchi.med.or.jp



山口県医師会は育児中の医師を応援します!

DATA 保育サポーター登録者数

令和7年9月1日現在 () 内は活動中

地域別	人	
下関市	10	(3)
宇部市	25	(8)
山口市	12	(5)
萩市	2	(0)
防府市	5	(0)
下松市	4	(1)
岩国市	0	
大島郡	0	
光市	1	(0)
長門市	2	(0)
柳井市	4	(0)
美祢市	0	
周南市	11	(1)
山陽小野田市	5	(1)
熊毛郡	0	
合計	79	(19)

編集後記

イベントで飲食ブースや企業ブースを巡っていると、「ニコニコ顔の女性から声をかけられた。」「棺桶に入る体験をしてみませんか?」おぉ、テレビで見たことあるアレねと思い、「入ります!」と入棺した。「ただ入るだけじゃつまらないのでヘッドホンから音が流れますね」と蓋を閉めてくれた。真つ暗になるけど体が棺桶にフィットして寝心地は悪くない。むしろ落ち着く。環境音楽が流れると思いきや、落ち着いたトーンで女性の声が流れてきた。「いま貴方の周りには親しかった人が集まり貴方の名前を呼んでいます。」ちよっとリアルに家族の顔を思い浮かべ「その方たちに感謝を伝えたくても、その言葉をもう口にすることはできません。会いに行こうと思っていた人、行きたかった場所にも行くことはできません」生きていくうちに悔いなく生きるの事を優しい口調で諭してくれるので気付けば涙がこぼれていた。最近似たような言葉を聞いたなあ。そうだ「メントモリ」もつとしくりきたのは「推しは推せる時に推せ。推しあげろ!」

棺桶から出る時にニコニコ顔の女性が言ってくれた。「あなたは生まれ変わりました。第2の人生へ行つてらっしゃい!」「行つてきまーす」と元気に返し、次回推しのアイドルコンサートの際には全国転戦しようと思つた。(保育相談員 石飛)